

早稲田大学 人間科学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分(現代文1問、古文1問、漢文1問)
難易度	昨年比、やや易化

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「人工知能の再定義」について。

出典：北野圭介『データ、情報、人間—情報哲学入門(1)—』。

《本文字数：約 6500 字＝昨年より約 600 字増加。設問数：13＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【空欄補充】同段落に、AIをめぐる「期待」と「不安」という語が繰り返されていることから容易に判断できるだろう。へは、bの「運命」が明らかに不適切。
問二	標準	【傍線部説明】同段落第二文の「フロリディの論立て」を「哲学的な用語で言い換え」たものである。
問三	標準	【傍線部理解】23行～51行での、「記号計算主義的」AIモデルとの対比における「学習型」AIモデルの有効性についての理解が問われている。イがやや紛らわしいが、前半の内容が本文になく不適切である。
問四	標準	【傍線部理解】同段落内容から判断する。消去法も有効だろう。
問五	標準	【理由説明】同段落の傍線部4以降の内容から判断できる。イがやや紛らわしいが、「分離することによって…」以下が不適切である。
問六	標準	【空欄補充】「学習型」AIモデルの特徴を表す表現を探す。24行と46行にある。
問七	やや易	【空欄補充】空欄cの直前の「人間の知能活動の一部を代替して」と対比される内容である。消去法でも容易だろう。
問八	標準	【理由説明】前文と直後の文とから判断できる。消去法も有効だろう。
問九	やや難	【理由説明】同段落の傍線部以前の内容から判断する。ロが紛らわしいが、「その根幹よりも外側の知能機能」が不適切。
問十	標準	【理由説明】直後の一文に書かれている。消去法も有効だろう。
問十一	標準	【傍線部説明】同段落の内容から判断できる。「人間が介在しなくともコンピュータが自ずと意味形成をしていく」ということである。
問十二	やや易	【傍線部理解】直後に「素朴な一元論」とあるので、その同義表現を探す。前段落にある。
問十三	標準	【内容合致】ニは最後から三段落目、へは最後から二段落目に、それぞれ合致する。ハは、「平行線を辿るしかない」が不適切。

(二) 古文。出典：鈴木牧之『北越雪譜』。

《本文字数：約 700 字＝昨年より約 200 字増加。設問数：7＝昨年より 1 問増加。》

小問	難易度	コメント
問十四	易	【文章理解】茶釜から「私をどこに連れて行くのか」という声が聞こえた、という話。
問十五	やや易	【傍線部理解】人をだますものは何か。選択肢から容易に判断できる。
問十六	標準	【傍線部理解】傍線部から主語が狐であることは容易に判断できる。 他の箇所も傍線部の直訳から判断できる。
問十七	やや易	【空欄補充】邪智が深いのは狐だけでなく人もそうだ、という文脈。
問十八	やや易	【文章理解】5行目に「余答へていふ」とあるので、たやすいだろう。
問十九	易	【傍線部理解】筆者に尋ねたのは誰か。選択肢から容易に判断できる。
問二十	やや易	【内容合致】ロは4～5行目、ニは11～12行目に、それぞれ合致する。

(三) 漢文。出典：劉向『列仙伝』

《本文字数：143 字＝昨年より 26 字増加。設問数：4＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問二十一	標準	【読み下し文】「問主人」「得無」に着目する。
問二十二	やや易	【傍線部理解】「不取一銭」に着目すれば容易だろう。
問二十三	やや易	【傍線部理解】再読文字「将」、及び、動詞「去」に着目する。
問二十四	やや易	【内容合致】ロは1～3行目に、ニは5行目に合致する。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は、昨年よりやや易化した。古文と漢文がかなり易しいので、現代文の出来で差がつくだろう。

大問一は、「人工知能の再定義」についての評論文。昨年よりやや易化した。本文字数は昨年より約 600 字増加し、約 6500 字の長文であった。ただし、昨年のような記述問題は出題されなかったし、古文と漢文が易しかったので、時間は確保できただろう。

大問二は、『北越雪譜』。昨年並みの難易度である。基本レベルの設問がほとんどなので、高得点をとる必要がある。

大問三は、『列仙伝』。昨年よりやや易化した。古文と同様、高得点をとりたいレベルである。